

課題No. 2	
課題名 実需のニーズに応じた「吟のいろは」の品質向上と栽培定着 (「持続可能な農業・農村構築」関連課題)	
計画期間	令和4年度
対象名及び対象者数	松山町酒米研究会(「吟のいろは」生産者14人)
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・「吟のいろは」は心白発現、収量性が良いという特徴を持ち、農家収益の向上が図れる。試験栽培を含めて5年が経過したが、県優良品種ではないものの、酒造好適米として県でも需要拡大を期待している品種である。 ・県内24蔵元中22の蔵元が原料として使用しており、令和3年度の宮城県清酒鑑評会では、受賞した12銘柄中5銘柄が吟のいろはを原料とした酒となった。 ・生産者、実需者それぞれが、より高品質な米や酒を作ろうと模索している段階であるが、実需者からは原料米の品質の均一化を求める意見が出ている。 ・松山町酒米研究会では、求められる原料米の品質を確保するため、土づくりや肥培管理等について研究を重ねており、毎年開催する酒米コンクール等で会員相互による技術の研鑽を図っている。 ・栽培面では、肥培管理技術早期確立に向け2年間展示ほを設置し、仮設定された目標収量構成要素を基に、施肥設計、肥培管理を指導し、データを収集した。令和3年産は肥培管理等の向上により、千粒重が重く、心白発現率も概ね80%以上と充実した米になった。一方で籾数の過剰や青未熟の発生、倒伏が落等の要因となり、より細やかな施肥管理が求められている。 ・展示ほ等の生育、品質等の結果を踏まえ、令和4年産に向けた栽培マニュアルを作成した。令和4年度は新たに取り組む生産者の支援に留意しながら、各生産者がそれぞれ栽培を実践し、品質の改善に向け結果の検討を重ねていくことがさらに重要となる。 ・コロナ禍で日本酒の消費が減少している中、令和4年産の「吟のいろは」の需要は増加が見込まれている。消費の増加及びそれに伴う栽培面積拡大のためには、吟のいろはに対する実需者の理解を深め、需要に結びつけていくことが重要である。
期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・「吟のいろは」の栽培技術習得が図られる。 ・蔵元のニーズに沿った栽培目標を実践できるようになる。
県実施方針上の関連項目	1-(1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援 2-(2) 多様化する需要の変化に対応した生産・販路拡大への取組支援
地域基本方針上の関連項目	1-(1) 地域農業を支える担い手の経営安定化支援 3-(1) 需要の変化に対応した生産・販路、販売の拡大
担当チーム員	◎町 直樹, 阿部 香, 佐藤結佳, 佐藤啓一
	担当班及び進行 管理責任担当者
	先進技術班 総括次長 木村政浩
令和4年度	
成果指標	<p>定性的目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「吟のいろは」の栽培技術習得が図られる。 ・蔵元のニーズに沿った栽培目標を実践できるようになる。 <hr/> <p>定量的数値目標</p> <p>㎡あたり籾数 27千粒(±5%) 達成生産者数 R3 4名 → R4 10名</p>
活動指標	<p>定量的数値指標(合計総現地活動日数 74日)</p> <hr/> <p>活動事項</p> <p>(1) 栽培管理技術確立支援 46日(展示ほ設置, 運営, 収量等調査結果まとめ, 生産者への伝達)</p> <p>(2) 関係機関と連携した交流・PR活動 28日(関係機関との連携及び交流, 研究会情報発信支援)</p>
関係機関の主な役割分担項目	
<ul style="list-style-type: none"> ・JA新みやぎみどりの地区本部(生産販売支援) ・全農みやぎ(米穀部) ・大崎市(プロモーション, 世界農業遺産認証制度等) ・古川農業試験場(栽培管理技術確立及び種子確保支援) ・産業技術総合センター(醸造技術支援) ・食産業振興課(日本酒のPR支援), ・みやぎ米推進課(種子確保支援) ・北部地方振興事務所地方振興部(酒造組合, 関係機関との連携支援) 	
関連事業名と役割 米価下落対策パッケージ	